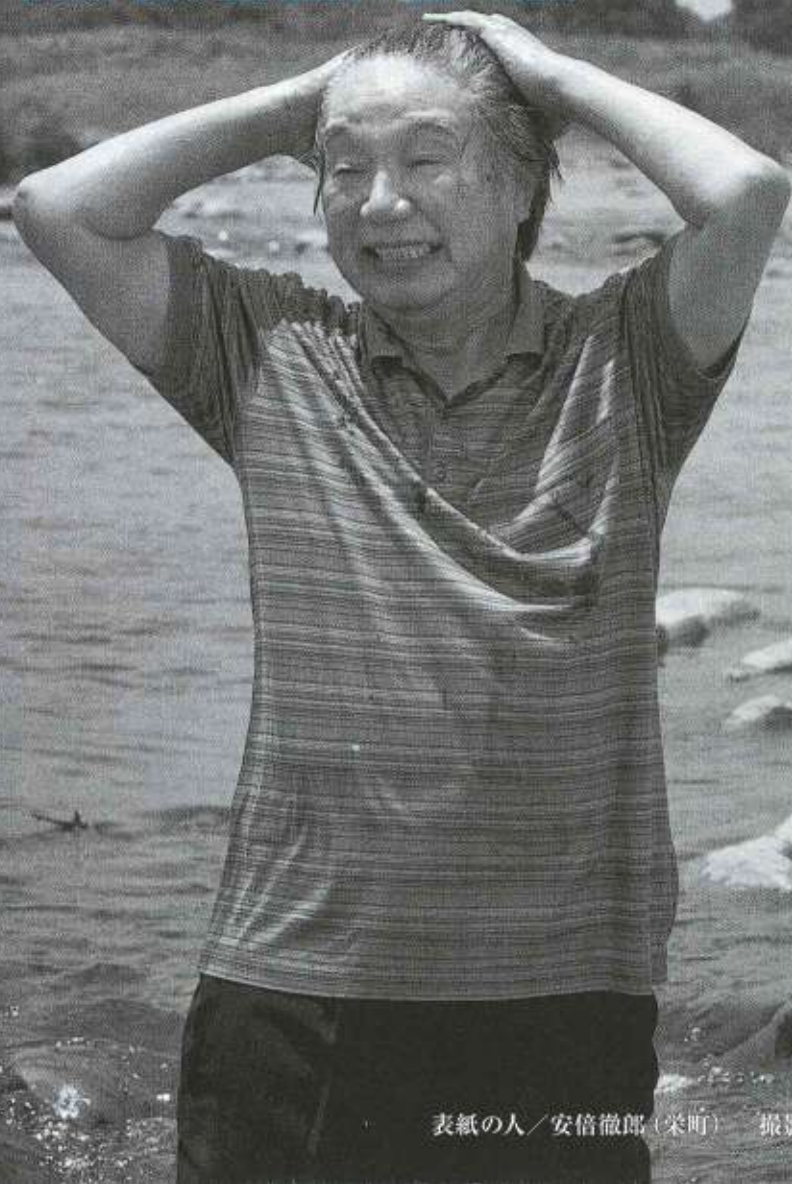


えくてびあん

8

立川と語ろう 立川に生きよう

AUGUST 2000 EKUTEBIAN Vol.19 No.193



表紙の人／安倍徹郎（栄町） 撮影／細江英公

【椋の樹】

【ムクノキ】

学名：Aphananthe aspera planch
ニレ科の落葉高木。ムク、ムクエノキとも呼ばれる。
材は床柱や馬鞍、農具や野球のバットにも使われた。

炎天下のもと、木陰を作り一時の安らぎをもたらしてくれる。にわか雨には雨やどりの場を与えてくれる。椋鳥を始め多くの野鳥たちが、毎年甘い実を食べにやってくる――。広い校庭の中にあり、学舎の子供たちの健やかさをじっと見守るこの大きな木は、立川市立第八小学校のムクノキである。

八小の前身はもとの砂川尋常高等小学校（後

に砂川国民学校）であり、かつては砂川八番、五日市街道の北側にあった。昭和二十年四月、B29の爆撃によって焼失してしまい、子供たちの教育の場は失われてしまった。しかし町民たちは、農家の蚕室や公会堂などを提供、子供たちは分散して休むことなく学業を続けた。その後、当時雑木林の中にあつた軍の施設を払い下げてもらい、「山の学校」と呼ばれた現在地に移

つたのが、今の八小の始まりである。やがて雑木林は切り開かれ、大きな木造校舎が建てられることになったが、年輪を重ねた一本の木がそのまま残された。その詳しい理由を知る人はいない。きっと未来を創る子供たちの、健やかな成長を願う想いが託されたのであろう。

立川の歴史を刻む名木として、今年も枝葉を繁らせている。



唾蟬の鳴きだしにけり椋大樹

井口 孝

所在地：市立第八小学校
校庭
(幸町2丁目)



終わってみたいば

赤川ワールド

銅板造形作家

赤川政由さん

赤川 赤川さん、一年間の連載、どうもありがとうございました。

赤川 いやいや、こちらこそ。赤川 「赤川作品十二撰」、とても好評でした。読者の中には、毎月作品を紹介する度に、実際に現地へ行って見に行く人まで出てきたくらい。

赤川 うわあ、嬉しいな(笑)。幸せなことですよ。

赤川 僕もね、この一年間は楽しかったですよ。このシリーズがきっかけで様々な人も出会えたし。一年という期間をかけてまとまった数の作品を見てもらえたことは、たくさんの方に自分の仕事を認知してもらえたことにつながった。僕にとってとても大きな力になりましたね。

赤川 今回の連載では、古い作品から新しいものまでいろいろ紹介したけれど、こうして改めて自分の作品を振り返るって



■赤川政由(あかがわまさよし) / 大分県出身。高校卒業後、アートの世界を志して上京。美術研究所で学んだ後『銅』の魅力と出会い表現のモチーフに。昭和49年、高松町に「BONZE工房」を開設し本格的に活動を展開。今やこの分野での先駆者として全国的に注目される存在に。また創作のみならず、立川市民文化フォーラム、立川市デザイン会議委員等の役員を務め「街づくり」にも積極的に取り組む。本誌では1年間に亘り「赤川作品十二撰」を連載。その作品世界を辿ったが、今回の対談でいよいよよこ本人の登場。自ら連載を振り返っていただいた。

■立井啓介(たていけいすけ) / 本誌発行人。

て機会はあまりないんじゃないのかな？赤川 そうそう。特に古い作品だとね、昔の自分、その時の自分に会っている感じがする。強烈に蘇ってくるものがありますよね。立井さんみたいなモノ書きにだってあるでしょ、そういうの。

赤川 ああ、なんとなくわかるけれど、そんなに強くないと思う。だって赤川作品のように、街に置かれて「残る」ってことがないもの。実際に造る側としては、残ってしまうことのイヤらしさというのか、怖さみたいな気持ちってあります？

赤川 うーん、怖さというのか。僕の場合、ある程度までやったら、そこでポーンって投げちゃうんです。

赤川 投げちゃう？赤川 そう。作品にメッセージの完璧性を求めないようには。必要以上に主張を盛り込むのではなくて、どこかで投げちゃうんです。作家としてはそれは逃げなのかも知れないけれど、僕はそうすることで、作品に親しみやすさを持たせるようにしてる。

赤川 それって、作品を作家の手から離して「一人歩き」させるってこと？赤川 そうそう、そういう感じかな。ほら、あのピノキオの…

赤川 ああ、ゼベット爺さん？赤川 そう(笑)。あの心境ですよ。実際、物理的にも銅で造っているわけだから型面変化が起きたり、黒ずんだりして、街に置かれてから表情もどんどん変わってくるしね。

赤川 なるほどね、作品が一人で成長していくわけだ。赤川 そうなってくればいいなああって。例えば、連載の最終回で紹介した「大きなケヤキ」。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。

赤川 幸公民館(幸町)の前にある大きなケヤキ。あれも幸せなケースだね。



滋賀県高島町のシンボル、身長7mの巨大なガリバー像「遠くを見る人」。製作は昭和62年。赤川政由35歳の作品。

赤川さんって作品にとりかかる前に、議論を積み重ねるでしょう？川口市の作品(本誌四月号掲載「ドンキホーテの時計台」)にしても、地元の人と徹底的に話し合う。普通、アーティストというのは「我を通してナンボ」ところがあるのに、決してそうはしない。

赤川 そうですね、最終的には作品のことを考えてのことなんだけどね。要するに議論する過程を通すことによって、その作品は、その場に長い年月たらず、こ

とができるんですよ。独善的にやっちゃうと「普通」には絶対ならない。

赤川 そうか、公共の場に立つ物だからね。風景とか街並みとか、いろいろな要素も考えなきゃいけない。

赤川 彫刻家は本来そうあるべきだと。赤川 あともう一つ、これも訊きたかったんだけど、ボンズ工房にはいつも若者が出入りしてて、赤川さんってそういう若い人たちの世話をちゃんとするでしょう。こんな面倒見のいい芸術家は減多

くない(笑)。赤川 うん、結局かつての自分なんです。ね。学歴とか、何かの受賞歴とか、

赤川 僕もね、この一年間は楽しかったですよ。このシリーズがきっかけで様々な人も出会えたし。一年という期間をかけてまとまった数の作品を見てもらえたことは、たくさんの方に自分の仕事を認知してもらえたことにつながった。僕にとってとても大きな力になりましたね。

赤川 今回の連載では、古い作品から新しいものまでいろいろ紹介したけれど、こうして改めて自分の作品を振り返るって

赤川 そうなっても物創りの情熱だけはある。そんな若い子たちの居場所を作っている感じなんです。僕もそういう時代があつて、いろんな先輩に助けられて、学んだおかげで現在があるわけだから。作品を世に働きかける厳しさ、そんなことも伝えられたらいいなと。

赤川 特に赤川さんの場合、作業は肉体労働の要素もあるからね(笑)。親方と若い弟子たちみたいな雰囲気があるな。

赤川 そうなんだ。連二無二、身体こぶつかって、最後は「ゴクローサー」って云われることをしないとね(笑)。

赤川 立井さん、あれ覚えてる？高島町の。取材来てくれたでしょ。

赤川 ああ！ガリバーね(滋賀県高島町「遠くを見る人」。昭和六十二年本誌七月号に記事掲載)。あれは凄かったね。感動した。

赤川 場所が遠いから、今回の連載では残念ながら紹介できなかったんですけどね。あの作品は思い出深いなあ。

赤川 僕が思うに、あれはひとつのターニングポイントだったんじゃないかな。

喫茶キャリー	藤崎町2-4-7 528-2630
かみゆい処 わ	藤崎町2-4-8 522-8202
芹沢ガラス店	藤崎町2-4-8 522-3065
お茶・海苔 小室園	藤崎町2-4-8 522-2894
ファッションハウスホマレヤ	藤崎町2-4-15-1F 525-2788
焼きたてパンオーロール立川店	藤崎町2-4-15 527-9473
日向地鶏 鳥 幸	藤崎町2-4-18 528-0556
純中国料理 北京大飯店	藤崎町2-4-19 522-6393
和食の店 な な や	藤崎町2-4-22 525-6980
田中星美堂薬局	藤崎町2-5-3 522-3913
特選しほ茶・海苔 菊川園	藤崎町2-5-6 526-2035
cafe COLORADO	藤崎町2-5-8 526-2285
マエダ文具店	藤崎町2-6-2 525-6584
スタジオ269	藤崎町2-8-10 527-0269
写真の エース	藤崎町2-9-2 523-0851
石原薬局	藤崎町2-10-3 523-4067
サイクルハウス 輪 輪 館	藤崎町2-12-17 522-8100
ビジネスHOTEL クボタ	藤崎町2-12-23 522-1122
いなげや 立川南口支店	藤崎町2-12-24 526-2947
白洋舎 立川南口支店	藤崎町2-17-5 525-0036

えくてびあんの輪
人があつて、街があります。
あなたがあつて、立川があります。
そこにちょっとだけ、えくてびあん！
リストのお店にはいつでも、えくてびあん！

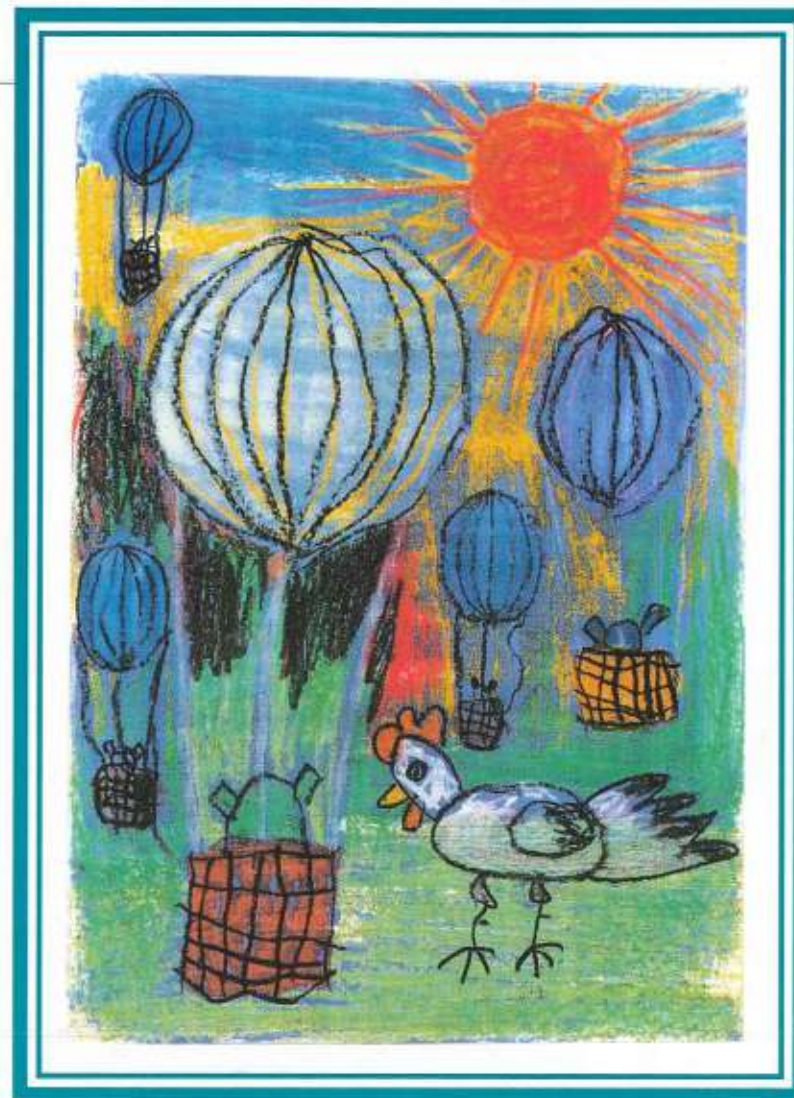
今月は柴崎町・富士見町・砂川町・柏町・曙町のお店です。

いなげや・のり巻きすし 松 月	藤崎町2-17-20 523-4758
ビューティーサロン ウィスタリア	藤崎町2-21-15 527-1116
ボックス しん あ い	藤崎町3-1-1 527-6701
ロッテリア 立川南口店	藤崎町3-1-3 522-3928
副 烹 紀 の 川	藤崎町3-4-3 525-5825
とんかつ専門 かつ 亀	藤崎町3-5-2 525-7647
宝飾・時計・メガネ ヨシダ	藤崎町3-5-4 522-2448
スペイン語・英・独・簿記 イスパニスタ	藤崎町3-6-3 522-2969
サンカメラ	藤崎町3-7-22 522-3336
あさひ銀行 立川支店	藤崎町3-10-1 522-4161
松山堂薬局	藤崎町3-13-25 522-2550
こむろ 酒店	藤崎町3-14-3 522-2613
矢沢 歯科 眼科	藤崎町3-16-2 525-6600
ダイクマ 立川店	富士見町1-24-9 526-1161
手作りケーキの店 プティパニエ	富士見町1-31-19 529-8364
JA 経済センター 立川店	砂川町2-44-3 536-1824
JA 東京みどり 立川支店	砂川町2-44-3 536-1821
ペーカリーリオンドール	柏町3-3-5 535-4882
ピッツェリア チャオ	柏町3-8-1 535-4882
和菓子・甘味処 甘泉堂	曙町1-14-12 522-4305

茉莉江ちゃんが描く

第30回『世界児童画展』優秀作品賞受賞

荒井茉莉江ちゃん(富士見町2丁目)は13歳。絵を描くことが大好きな女の子です。知的障害をもちながらも、時にはお母さんや先生の手を借りて、茉莉江ちゃん一枚一枚、作品を仕上げます。そのひとつが今年3月、第30回『世界児童画展』(主催:美育文化協会、日本テレビ放送網文化事業団)で国内の部・優秀作品賞を受賞しました。大きな賞をいただいた茉莉江ちゃん、クレヨンの描線はいっそう力強さが増したそうです。現在、茉莉江ちゃんの絵は世界をまわり、各国の児童画展に出展。世界中のお友だちの絵と一緒に、多くの人々の目と心を楽しませています。



第30回『世界児童画展』優秀作品賞受賞

● 気球 ●



● うさぎ ●



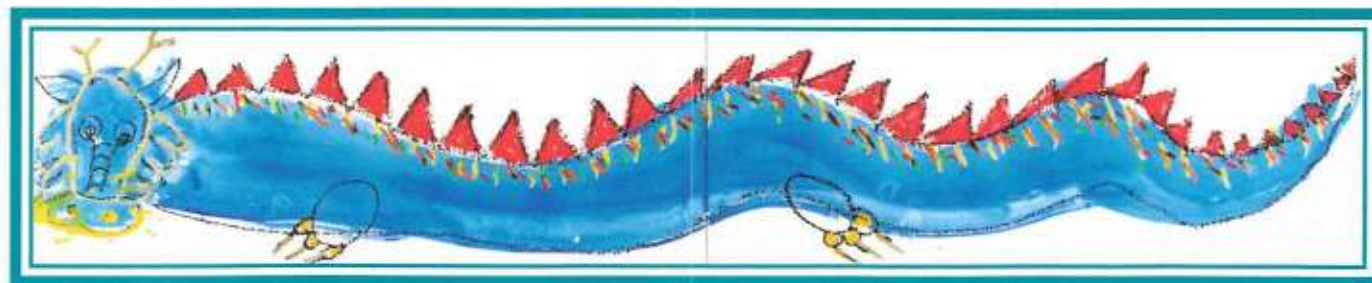
● かに ●



● ライオン ●



● ペンギン ●



● 竜 ●

脚本家。
早稲田大学卒業後、雑誌記者としてスタートしたが、昭和31年より脚本家として独立。初期には映画関係の仕事が多かったが、その後テレビドラマの分野で活躍する。主な作品としては、女優・山口淑子の自叙伝「さよなら李香蘭」、「鬼平犯科帳」(池波正太郎原作)、「居酒屋兆治」(山口謙原作)など多数に及ぶ。将棋の世界にも造詣が深く「われら立川人」(えくてびあん刊)では、芹澤九段をテーマにしたエッセーで健筆をふるった。
(於・多摩川/撮影・細江英公)

東風

炎天の日々がつづく。それでも夏が大好きだと云う人がいる。同じ人が、冬になると冬が大好きだという場合がある。ああいう人は四季それぞれの愉しみを識っているのであろう◆荒井茉莉江ちゃんが「世界児童画展」の優秀作品賞を受賞した。おめでとう。13歳にしては絵が幼すぎると見る向きもあるだろうが、知的障害をもちながら、ここまで描きあげるのには並大抵のことではあるまい。その根気にも、拍手を送りたい◆障害児をもっているご家族のケアもまた根気のいる生活で、有り体に言えば、恥も外聞もなくその子愛する、その様は余所から見ても涙をそそる。絵を描くことは茉莉江ちゃんにとっても、ご家族にとっても修練というよりも、癒しなのである。作品の成果よりも、その過程に深い意味合いがあるのではないだろうか◆「たちかわ名木伝」は好評のうちに七回目を迎えたが、今回はムクノキ。立川八小の校庭の真ん中に立っているが、野球をやるにしても正直、邪魔になるであろう。が、誰も切ろうと云いださない、云いだせない。木の持つ存在感、生命感に圧倒されてしまうのであろう。樹木にはそういう力がある◆ねむり草 ねむらせてみる えくてびあん

【第三次えくてびあん同人】
編集 大久保清志/小林康史/杉山清純/
芳賀敏博/山田五郎
デザイン 池田隆男/AMNET DF
写真 真五来孝平

えくてびあん 8月号
第18巻 通巻193号
平成12年8月1日発行
発行 えくてびあん編集工房
〒190-0012
東京都立川市藤町2-17-5 杉田ビル3F
TEL. 042-528-0082 FAX. 042-528-0065
編集人 芳賀敏博
発行人 立井啓介
印刷 (株)大廣社

※断載を禁じます。

Topics トピックス

久田雅夫さん(栄町)の 東京の野生動物写真展、 盛況

— 於 / 銀座キャノンサロン —



20年にわたり野生動物の撮影に情熱を燃やす久田雅夫氏

去る6月19日から24日まで、東京銀座キャノンサロンにおいて、久田雅夫写真展「東京の野生動物」が開かれた。会期中は「東京にこんな多くの野生動物がまだ棲息しているのか」という驚きの声とともに、多くの来場者をよるこぼせていた。この写真展は先に出版された『奥多摩に生きる動物たち—山小屋の撮影日記より—』(けやき出版発行)に基づいて構成されたもので、久田さんが五年にわたって山小屋付近の「野生動物と人間のボーダーライン」で定点観測を続け、その成果をまとめた作品集。テン、ハクビシン、ニホンカモシカ、ツキノワグマなど、本当に東京都にこんな動物がまだ残っているのかと思われる被写体群。久田さんは1980年から動物写真家として独立。以降、野生動物を中心に撮影を続け「東京都鳥獣保護員」としても活躍。環境保護にも力を注いでいる写真家として知られる。



近著『奥多摩に生きる動物たち』(けやき出版)表紙より

著書に『「貂の森」日記』(原生林刊)、『ツシマヤマメコ写真集』(風人社)、『グリズリー』(毎日新聞社)などがある。すべて野生動物への限らない愛惜から撮影された作品で構成されている。なお、キャノンサロンでの『東京の野生動物』写真展が好評のため、9月5日から10月1日まで「東京都多摩動物公園」特設会場にても開催される(9時30分～16時30分/月曜休館)。問合せ先は「フォトライブラリー野生王国」(TEL 042-535-7083)まで。



真味百撰 40

とんかつ・割烹 かつ亭
●幸町4-59-3 ●535-4611
●11:30～14:00、18:00～22:00
14:00～17:00ティertime ●水曜定休

なじみ客を増やして13年
かつを引き立てる
ゴマソースの香ばしさ

ご主人の須崎洋介さんは生粋の砂川生まれ砂川育ち。10年ほど国分寺で和食の修業をして昭和63年、郷里にこの店を開いた。幸町団地のすぐ近く。家族連れ向きのお好み焼きや鉄板焼き、お酒に合う一品料理もあるが、メインはやはりとんかつ。食べる直前に小さなすり鉢でゴマをすり、ソースを入れ香ばしいゴマソースにしてかけるのがかつ亭流。須崎さんが若い頃、旅行中にヒントを得た食べ方だ。箸が手になじむ塗り箸というのも心憎い。肉、パン粉を吟味し、揚げ油は「さっぱり揚げり、お土産にして冷えてもおいしい」白綿油。奇をてらわず「日本人なら誰でも好きなとんかつの味」に徹している。決め手の揚げ具合は「肉質によって微妙に変わるので勘だけが頼り。13年続けても毎日が修業ですね」。一度食べてファンになり、遠くからやってくる常連客も多い。午後2～5時は奥様手作りのカップを使ったティertime。店内に陶芸作品を展示したりフラワーアレンジング講習会を開いたり、しっかり地域に根付いている。「みぞれかつ」「にんにく挟み揚げ」(1200円)、「しそ包み揚げ」(1550円)などの変わり揚げもお勧め。



ゴマのすり鉢が独特なランチタイムの定番コースかつ定食(950円)。ヒレ一口かつ定食(980円)、豚しょうが焼定食(950円)も。



じろさんの独断毒語

13 壽三郎

わが家では最近、養子を一人迎えることになりました。今年の四月二十日に生まれたばかりの幼さを子です。名前を壽三郎と云います。と申ししても、これは「猫」の話です。もらい受けた頃はまた毛もまばらでしたが、最近はずつかり生え揃って、時にイッパシの顔付きをするようになったのです。じゃれついて、家中の者が爪でひつかれた痕が絶えないほど、誰かがメンソレータムを塗ってあります。それでも可愛くて、いとおしくて、朝起きると一番に、—— 壽三郎、おはよう！ と元気に声をかけますし、外出から帰ってきますと家族の者に、—— 壽三郎は元気か？ と訊きます。子猫が一匹いるといたいとは家庭内がこんなに違うのかと驚くばかりです。近ごろ流行の言葉でいえば「癒し」というところでしょうか。

壽三郎は決して「名猫」ではありません。三毛猫とかベルシヤネコ、アメリカン・ショートヘアといったような名のある猫ではありません。犬に「駄犬」という言い方がありますが、その流儀でいえば「駄猫」でありましょう。実はそこが私の気に入っているところなので、ぶくぶく太って、ふてぶてしくなった猫にどれだけの愛情が注げるか自信はありません。それに愛玩動物の「死」もまた忌み事です。私は少年の頃に兎や鶏、あひるなどを飼っておりましたし、大人になってからも犬、兎、鶏などを飼

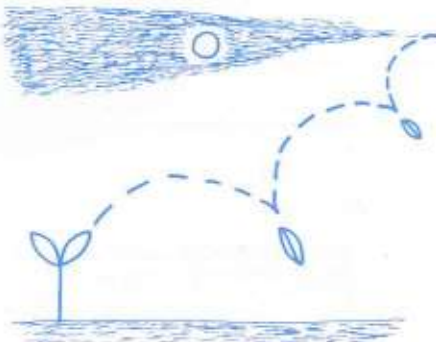


イラスト 藤子

す。私もまた「駄人」だからです。どこの馬の骨ともわからない人間が、どこの猫の骨ともわからない子と一緒に暮らす、ここにこそ限らない愛情の情が生まれようというものでしょう。ただ、これも幼いうちだけかも知れません。猫の寿命はおおよそ十五年くらいだそうです。壽三郎と私とどちらが長生きするか、その時になってみなければ分かりませんが、多分、私が壽三郎を看取ることになるのだろうと予想されます。いま、私は風を追いかけていた「五つの頃」を懐かしく想いだしているところですが、壽三郎は私の指の動きが面白いのか、連二無二とびついてきておられます。その身体のしなやかさ、のびやかさ、あとけなきが可愛くてたまりません。彼の眼がくるりとまわりました。今を生きている壽三郎は、そのことを知っているのでしょうか。

(やまだこうりゅう・詩人)

観天望氣

天を観望し、氣を望むという意味。天候が人間の関心事であるのは今も昔も同じだが、科学的な気象予報のない時代には、もっぱら雲や風の変化や動きから判断した。現代でも農村や漁村にはその土地の伝統的な予測法が伝わる。



「常楽我浄」(じょうらくがじやう)放送時間
スカイパーフェクTV 216ch、マイテレビ 84ch
土曜 午前9時～9時15分
午後7時15分～7時30分
再放送/火曜 午前9時～9時15分
午後7時45分～8時
放送時間は予告なく変更する場合がございます。

立川に育てられて六十四年
真如苑
連絡先 1-2-13 Tel. 527-0111(代)

世界の主要通貨、トラベラズチェックはもちろん、ご要望の多いアジア通貨もそ場で再替可能。

たましん
ワールドキャッシュセンター
ルミネ立川9Fバスポートセンター前
営業日 月曜日～金曜日 (土・日・祭日は休業)
営業時間 午前10時～午後4時
TEL 042(523)0057

古楽器演奏会のご案内

時の佇い 正倉院復元楽器と雅楽を聴く

日時 9月6日(水) 午後7時開演
会場 カザルスホールお茶の水スクエア内
演奏者 笹本武志 芝祐靖 中村仁美 石川高
三橋貴風 篠崎史子 神田佳子 一柳慧 他
◆ご希望の方は往復乗車券で、えくてびあん「古楽器演奏会」係り宛へ応募ください。抽選で百名の方をご招待します。切:8月18日

主催 古楽器を聴く会
協賛 女子パウロ会 真如苑

彫刻家・吉岡ひろ (錦町)



創型会同人賞受賞「見送る母」



今年、私がこの世界に入って丸五十年、節目の年となりました。師匠の家に入り、住込みで見習い修行を始めたのは十七歳の時。やがて結婚して上京、立川に。四人の子をもうけ家事や育児に追われながらも、コツコツと続けた創作活動。情熱を絶やすことなく、幾つもの作品展への出品を続けてきました。

今年五月、彫刻のみの展覧会「創型会」に、等身大立像「見送る母」を出品しましたところ、同人優秀賞をいただきました。郷里仙台にいる母の、帰京する私を見送る姿がとても印象的で、いつか彫刻にしようと思っていたものです。由緒ある会での受賞はもとより、なによりも親孝行ができた、嬉しく思っています。

これを期に、故郷の街で個展を開かせていただくことになりました(8月31日から9月12日まで仙台市一番町・瀬戸屋4階「ギャラリーZEN」TEL022・215・5804)。今、その準備作業に動んでいます。仙台を訪れる機会があったら、どうぞお立ち寄りくださいませ。

吉岡ひろ